

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	グループホームでの暮らしを念頭に地域密着サービスの意義を踏まえた事業所の理念を職員間で話し合い、作り上げることが望まれる。	グループホームの理念を作る。	職員会議にて個々の意見を取り組み独自の理念を作成します。	3ヶ月
2	6	拘束による弊害や心理的圧迫感等について職員間で話し合い、身体拘束のないケアへの認識を深め、鍵に頼らないで見守る時間を増やしていけることを期待したい。	玄関自動ドアを常に開放状態にしておきたい。	拘束に対する職員の意識付けを向上、周知徹底し日中は常に自動ドアを開放できるようにしておく。	3ヶ月
3	26	個々の入居者の心理面にも目を向けて、環境を整え、より良い暮らしを支援する具体性のある計画の作成に、チームで取り組むことが望まれる。	入居者様、個人への関われる時間の増加、安心できる環境を整える。	24Hシートを活用し、個々への関わる時間を見直す、居室の環境はケース担当者で検討、ケース会議、ユニット会議で話合う。	3ヶ月
4	30	希望があれば、協力医療機関以外のかかりつけ医の受診も受け入れて、連携していることが望ましい。	他の医療機関と連携を行う。	本人様や家族様が他科受診希望される場合は行う。	2ヶ月
5	40	ケアの一環として、職員と同じテーブルで食事の楽しみを共有する環境が実現できることを期待する。	入居者様と職員の食事を一緒にする。	曜日を定める等し、徐々に一緒に食事をする回数を増やしていく。	2ヶ月
6	49	一人ひとりの希望や習慣、楽しみに合わせた日常的な外出の支援にも期待したい。	個人の行きたい所に行ける。日常的な外出にバリエーションを持たせる。	集団ではなく、少人数グループでの希望場所への外出などを増やしていく。日常的な外出は散歩、買い物以外の目的地を増やす。	2ヶ月
7	52	一人ひとりが自宅の延長として居心地良く自由に過ごせるよう、家具や調度品の配置を工夫し、季節感が味わえる心地よさと生活感のある暮らしへの工夫を期待したい。	施設内に居られても四季感じられる、自宅と変わらない環境を整える。	季節の感じられる、食事、季節に応じた調度品の設置、作成レクを行う。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。